introduction

宗内寺院紹介 20

書写山 圓教寺

〈第一霊地〉圓教寺は中世まで、西の比叡山、天台三大道場の一つと言われるほどの大寺院であった。西谷に広がるその中心伽藍は、総本堂の大講堂、食堂、常行堂をコの字型に配置し、東に五重塔が建つものであった。性空上人によって建立された伽藍群は、鎌倉時代に全てが巨大化し、ほぼ現在の形になった。後元徳三年（一三三一）三月五日五重塔に落雷があり、それが元で火災になり、五重塔、大講堂、食堂、常行堂を焼失、その後再建されたものが現在残されている。五重塔は未だ再建されないままである。

〈第二霊地〉西国第一七番六臂如意輪観音をお祀りする摩尼殿を中心とする。康保三年（九六六）に入山された性空上人が桜樹に天人が降下礼拝するのを見て、生き木に彫った立木観音であった。延徳四年（一四九二）に生木観音共に焼失し、今は同木の観音像を本尊とする。

〈第三霊地〉書写山頂三七一メートルの准胝峰に白山権現社がある。素盞ノ烏命が下りたち、一宿された地と伝える。素盞ノ烏命を祀ったことから、素盞ノ山と呼ばれたのが書写山の由来である。

書写山 圓教寺
住　所／〒671-2201　兵庫県姫路市書写2968
電話番号／079-266-3327